

October 2009

大阪大学図書館報

vol. 43 no. 1 通巻 168号

発行所 大阪大学附属図書館 2009年10月1日発行

〒560-0043 豊中市待兼山町1の4

e-mail: kohowg@library.osaka-u.ac.jp

CONTENTS

- よみがえる懐徳堂資料 …P. 1
- 学生選書ツアー …P. 3
- 教員著作寄贈図書のご紹介 …P. 4
- News 図書館からのお知らせ …P. 5

よみがえる懐徳堂資料

湯浅邦弘



「ビフォーアフター」という人気テレビ番組がある。古ぼけた使い勝手の悪い家を、現代の匠（建築士）が大改造してみせるという内容である。改築された新居は、これがまるで同じ家かと思うほど、劇的によみがえる。同じような悩みを抱えた視聴者も、深い共感を持ってこの番組を見るのであろう。放送が開始されてからすでに4年。高い視聴率を誇る長寿番組である。

こうした古家と大学の貴重資料とを同じ次元で語るわけにはいかないが、先日、貴重資料のビフォーアフターを体験する機会に恵まれた。

懐徳堂資料の修復計画

今から280年前、大坂に懐徳堂が設立された。大阪大学の精神的源流の一つとされている漢学塾である。その懐徳堂に由来する5万点もの貴重資料が、現在、大阪大学附属図書館に収蔵されている。

だが、200年の時を経て、資料の劣化は著しい。ある文献は虫食いにやられ、ある屏風は外枠がはずれ、ある書画は色彩が剥落している、といった有様である。資料の修復は、まさに刻下の急務と言ってよい。

そうした中、大阪大学後援会のご高配を得て、懐徳堂貴重資料の内、計32点の修復が行われることになった。さっそく修復候補となる資料を抽出し、その劣化の具合などを調査した。

修復を委託したのは、京都市中京区にある株式会社大入である。平成の経師を名乗る大入の担当者とはじめてお目にかかったのは、平成20年の師走であった。一点一点、資料を解説しながら劣化の状況を示すと、それぞれの資料にふさわしい修復の提案が返ってきた。平成21年度に入り、いよいよ修復の発注が決定し、資料の引き渡しが行われた。完成予定は平成21年度末。これで、貴重資料とは一年の離別となったわけである。

ところが、それから約半年後、附属図書館利用支援課の稲葉洋子課長のお口添えにより、資料修復の現場を視察できることになった。思いがけず、修復途中の資料に再会できる機会を得たのである。

経師の仕事

平成21年7月21日、京都の大入に向かった。附属図書館からは、細戸康治部長、稲葉課長をはじめ、12名の職員、文学研究科からは、筆者のほか、池田光子（中国哲学研究室助教）、井上了（懐徳堂研究センター職員）が参加した。

はじめに、二階の会議室に招かれ、ビデオによる修復の実例紹介と、今回の修復の概要説明とが行われた。その後、まず一階に降りて、作業現場を視察した。ここには、2メートル×2メートルの大型スキャナがあり、資料の高精細画像をとることができる。精度はなんと23億画素。資料の本格的な修復にはこうした機材が不可欠であることを思い知らされた。またここでは、書帙の芯材を作る工程を見学した。貴重図書室ではなじみ深い帙がどのように作られていくのか、興味深い工程であった。さらに、保存箱を作るためのサンプルカッターの工程を見た。資料の大きさに合わせたオリジナル保存箱を作るには、精巧な設計図が必要となる。コンピューターと連動した巨大なカッターが、まるで生き物のように動く。

続いて、二階の作業現場に移動した。いよいよ懐徳堂資料との対面である。100畳ほどもある広い空間で、数名の方が黙々と作業に従事している。当初、経師屋ということばかり連想されたのは、いかにも職人気質といった高齢の男性であった。ところが、実際に作業を担当されていたのは、若い女性が多い。

説明によれば、この仕事は、資格・経験一切不問。必要なのは、根気とセンスだけだという。確かに、虫食いの処理をしたり、裏紙をはがしたりという作業は、砂を噛むような仕事である。繊細な手作業であり、センスも必要である。就職して一年で、伸びる人材かどうかがおのずと分かってくるという。

ここでは、懐徳堂資料がどのように修復されつつあるのか、説明を聞きながら見学した。これまで、図書館で見ていた資料とは、まったく別物のように感じられたのはなぜであろうか。劣化の進んだ資料たちは、まるで手術台の上に乗った患者のようにも思えてきた。



水を使わずに旧補修紙を剥がす工程

修復の意義と責任

だが、それらは確かによみがえりつつあった。たとえば、宋六君子図。

懐徳堂の学問の根幹は、中国伝来の朱子学であった。南宋の朱子によって大成された儒学が朱子学である。その宋代を代表する6人の学者、周敦頤・程顥・程頤・張載・司馬光・邵雍の姿を描いた絵に、頼春水が賛をつけたものである。春水は、頼山陽の父として名高い。春水は広島藩儒であったが、大坂に学び、懐徳堂の中井竹山と交遊があった。絵は、周敦頤・程顥・程頤を蔀関月が、張載・司馬光・邵雍を、関月の弟子・中井藍江が描いている。

外形寸法は、縦が約30センチ、横が約115センチ。大きな6枚の絵である。賛が書かれたのは寛政9年（1797）。懐徳堂は寛政4年に全焼し、寛政8年に再建されている。おそらく、堂の再建を祝って、これらの画と賛とが作成され、竹山に贈られたのであろう。もとは懐徳堂講堂の東側梁上に掲げられていたという。大阪大学に寄贈される前の保存状態が良くなかったためか、かなり変色劣化が進んでいた。

今回の修復では、この資料に対して、いわゆる「洗い」が施された。つまり汚れを除去して、本来の色をよみがえらせるのである。修復は途上であったが、確かに、それぞれの絵と賛は、以前よりはるかに鮮明に見える。この絵がかつて懐徳堂の講堂に掲げられていたかと思うと、感慨もひとしおであった。

この他の資料も一点一点修復の様子を確認した。全体として言えることは、いつかの時点で補修が行われた形跡があるが、それがかなり杜撰なものであったということである。おそらく、懐徳堂記念会が設立された明治の終わり頃か大正時代か。補修の方法は、経師の技とは思えない粗雑なものである。虫食いや破れの箇所は、本紙とはまったく異質な紙を裏から貼りつけて繕っている。そこで、今回の修復では、こうした旧補修紙を丹念にはがしとるところから始めなければならなかった。

修復とは恐ろしいものである。それを行った者の見識や実力が如実に表れ、しかも、それが後世に残る。身の引き締まるような思いであった。

ともあれ、懐徳堂の貴重資料は、こうした修復を終えて、年度末に帰ってくる。「アフター」を一般に公開できるのは、平成22年。それはまさに、懐徳堂記念会創立100周年にあたる記念の年である。

（ゆあさ・くにひろ 文学研究科懐徳堂研究センター長、附属図書館研究開発室室員）



修復前に顕微鏡で詳細な調査中



宋六君子図（修復前）

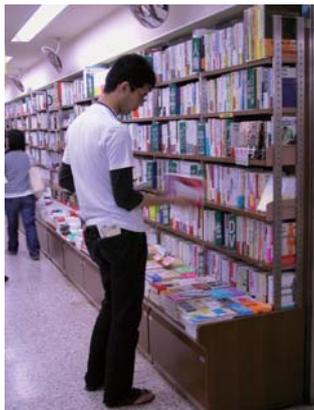
学生選書ツアー

総合図書館では、6月30日に学生選書ツアーをおこないました。この選書ツアーは学生さんの「こんな本が図書館にあればいいのに！」というご要望にお応えし、利用者ニーズを蔵書に反映させるために実施しているもので、今年で3年目になります。選書は紀伊國屋書店梅田本店のご協力を得て、1～2時間おこないました。

選書ツアーへの申込みは、附属図書館ウェブページ等を通じて公募され、その結果、経・人・基・言・外・工の各学部・研究科の学部生・院生、9名の参加がありました。選書ツアーで選ばれた図書は、既に蔵書にあるものや個人購入が適切と考えられるものを除いて購入される予定です。

理工学図書館では、7月9日に学生選書ツアーをおこないました。選書は生協書籍部工学部店のご協力を得ておこなわれました。授業時間と重なったためもあり参加者は1名と少なかったのですが、必要と思う図書がしっかりと選ばれていました。この選書ツアーで選ばれた図書は、「新着コーナー」に並んで間もなく殆どの図書が貸し出されました。

附属図書館では、秋にも学生選書ツアーをおこなう予定で準備を進めています。今回は参加できなかった方も次回ぜひご応募ください。



学生選書ツアーの参加者から、選んだ本の推薦文の寄稿がありましたので掲載します。

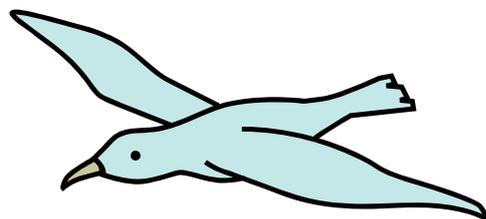
「カモメに飛ぶことを教えた猫」



まず、題名に惹かれて手にとりました。黒猫のゾルバのもとに飛び込んできたのは瀕死のカモメ、ケンガー。

彼女はこれから産み落とす卵を、この猫に預けることになるのですが、果たして猫は子カモメに飛び方を教えることはできるのでしょうか。

ページ数もそれほど多くないので、普段あまり本を読まない方にもおすすめです。



「直筆で読む「人間失格」」

作家が一つの作品を書き上げるまで、一体どんな思考を重ねたのか。あらゆるものがデジタル化され、どの人が書いたものも同じ文字になってしまう現代ですが、直筆で物語をたどることによって、太宰治という生身の人間が感じられました。

学校で読まされる道徳的な教えやきれいごとではない、人間の一面がそこにはあります。確かに物語は明るいものではありませんが、落ち込んでいる人こそ、読んでみる価値はあると思います。

(外国語学部 3年 木村美和)

●●● 教員著作寄贈図書のご紹介 2009.Mar. ~ Aug. ●●●

寄贈者氏名(所属)※敬称略	書名
金子照基 (名誉教授)	教育改革の課題と基本構想：「第四の教育改革」をめざして
岸本忠三 (名誉教授)	新・現代免疫物語：「抗体医薬」と「自然免疫」の驚異(ブルーバックス；B-1633)
天野文雄 (文)	世阿弥を歩く(阪大リーブル；012. 能苑逍遥；上)
市川明 (文)	プレヒトテキストと音楽：上演台本集(プレヒトと音楽；3)
	プレヒト音楽と舞台(プレヒトと音楽；2)
	ドイツ語ステップアップ：参考書+問題集 新訂版
小林茂 (文)	近代日本の地図作製とアジア太平洋地域：「外邦図」へのアプローチ
田野村忠温 (文)	コーパスを用いた日本語研究の精密化と新しい研究領域・手法の開発 3
石井正彦 (文)	
桃木至朗 (文)	わかる歴史・面白い歴史・役に立つ歴史：歴史学と歴史教育の再生をめざして(阪大リーブル；013)
湯浅邦弘 (文)	江戸時代の親孝行(阪大リーブル；011. 懐徳堂)
	墨の道 印の宇宙：懐徳堂の美と学問(阪大リーブル；009. 懐徳堂)
Paul A.S. Harvey (文)	Selections from Shakespeare 2 (MTMM series)
	Messages to my mother 7
	Messages to my mother 3 2nd ed
大谷順子 (人)	通過国際衛生政策看中国
栗本英世 (人)	紛争後の国と社会における人間の安全保障(Glocol ブックレット；01)
志水宏吉 (人)	全国学力テスト：その功罪を問う(岩波ブックレット；No.747)
	公立学校の底力(ちくま新書；742)
	高校を生きるニューカマー：大阪府立高校にみる教育支援
	実践的研究のすすめ：人間科学のリアリティ
	学力を育てる(岩波新書；新赤版 978)
	「力のある学校」の探究
染田秀藤 (人)	コンフリクトの人文学
太郎丸博 (人)	若年非正規雇用の社会学：階層・ジェンダー・グローバル化(大阪大学新世紀レクチャー)
中道正之 (人)	ゴリラの子育て日記：サンディエゴ野生動物公園のやさしい仲間たち
中山康雄 (人)	現代唯名論の構築：歴史の哲学への応用(現代哲学への招待 / 丹治信春監修)
渡邊雅行 (人)	保健医療サービス：保健医療制度・医療福祉
三成賢次 (法)	ガンス法哲学講義 1832/33：自然法と普遍法史
阿部武司 (経)	日本の工業化と女性労働：戦前期の繊維産業
	地域史の可能性：地域・日本・世界(年報・近代日本研究；19(1997))
長谷純宏 (名誉教授)	ピリジルアミノ化による糖鎖解析：糖鎖多様性の解析に向けて
長束俊治 (理)	
石水毅 (理)	
佐々木仁 (医)	Visual perception：new research
大嶋隆 (歯)	小児の歯科治療：シンプルなベストを求めて
舘村卓 (歯)	神経科学：コミュニケーション障害理解のために (原著第3版)
	臨床の口腔生理学に基づく摂食・嚥下障害のキュアとケア
豊澤悟 (歯)	エナメル質：形成、構造、遺伝、再生、起源と進化
掛下知行 (工)	International Conference on Advanced Structural and Functional Materials Design 2008, 10-12 November 2008, Osaka, Japan(Journal of Physics：conference series；v. 165)
谷口研二 (工)	グローバル COE プログラム次世代電子デバイス教育研究開発拠点：中間報告書
東海明宏 (工)	デカプロモジフェニルエーテル(詳細リスク評価書シリーズ；23)
福井希一 (工)	ESP 的バイリンガルを目指して：大学英語教育の再定義

寄贈者氏名(所属)※敬称略	書名
福井希一 (工) 栗原佐智子 (工)	キャンパスに咲く花 阪大豊中編
矢野昌彦 (工) 盛岡通 (工)	リスクマネジメント・システム(シリーズ環境リスクマネジメント ;3)
長澤裕 (基)	謎解き超常現象
林田理恵 (言文)	授業づくりハンドブック : ロシア語(大阪大学新世紀レクチャー)
宮本陽一 (言文)	生成文法の展開 : 「移動現象」を通して(大阪大学新世紀レクチャー)
藪司郎 (言文)	古ビルマ語資料におけるミャゼディ碑文(1112年)の古ビルマ語(OB)
Dybovsky Alexander (言文)	ロシアの極東における日本学の行方: 論文集・文献目録
木下修一 (生命機能)	Structural colors in the realm of nature モルフォチョウの碧い輝き : 光と色の不思議に迫る
審良静男 (微研)	Nucleic acids in innate immunity
野島博 (微研)	医薬分子生物学 改訂第2版 絵でわかるがんと遺伝子(絵でわかるシリーズ)
本田武司 (微研)	病原微生物の本音: 本田武司教授退職記念業績集
橋爪節也 (博物館) 江口太郎 (博物館)	映画「大大阪観光」の世界 : 昭和12年のモダン都市(大阪大学総合学術博物館叢書 ;4)
藤田治彦 (CSCD)	芸術と福祉 : アーティストとしての人間(阪大リーブル ;14)
松木園久子 (世界セ)	英語小説にみる「村」のなかのインド
吉村大樹 (世界セ)	トルコ語のしくみ

詳細は教員著作コーナーのウェブページ (<http://www.library.osaka-u.ac.jp/kyoin/kyoin-kizo.htm>) へ



理工学図書館で改修披露式典をおこないました

理工学図書館(旧・吹田分館)では、このほど耐震改修工事が完了したことを受け、改修披露式典を4月28日におこないました。

小泉潤二理事・副学長 附属図書館長の式辞、鷺田清一総長の挨拶に続き、平尾俊一副館長(理工学図書館担当)を加えた3名によるテープカットがおこなわれ、その後、新装なった理工学図書館の見学会がおこなわれました。

理工学図書館では、この耐震改修工事にあわせ、自主的・自立的な学習活動を支援するための「学びの場」、「創造の場」、「発想の場」である「ラーニング・コモンズ」を新たに設置し、情報機器の増設、可動式の机・椅子を配置することにより、グループでの学習や議論をサポートすることのできる「話せる図書館」スペースを新設しました。このラーニング・コモンズには、ティーチング・アシスタントを配置し、図書館の利用や学習をサポートしています。また、新たに館内利用のための貸出用のノートPCも用意しています。

大型ディスプレイを備えた図書館ホールの収容人員を80席から100席に増席したり、個性的な机と椅子を設置したグループ学習室、明るく見通しのよくなった閲覧室など、施設・設備を改修前に比べ格段に充実させました。このように充実した施設・設備が学習・研究のために十二分に活用されることを期待しています。



鷺田清一総長の挨拶



小泉潤二理事・副学長
附属図書館長の式辞



テープカット



総合図書館で改修披露式典をおこないました

総合図書館（旧・本館）では、このほど耐震改修工事が完了したことを受け、改修披露式典を6月2日におこないました。

小泉潤二理事・副学長 附属図書館長の式辞、高杉英一理事・副学長の挨拶に続き、竹中浩副館長（総合図書館担当）を加えた3名によるテープカットがおこなわれ、その後、新装となった総合図書館の見学会がおこなわれました。

耐震改修工事のおこなわれた総合図書館B棟は、各階毎にゾーニングがおこなわれ、それぞれ「ラーニング・コモンズ」「端末ゾーン及びマルチメディアゾーン」「サイレントゾーン」として整備されました。「ラーニング・コモンズ」には、理工学図書館と同様の設備を整備しています。「端末ゾーン及びマルチメディアゾーン」には情報教育システム用パソコンとマルチメディア・パソコンを計66台、ゼミも可能なグループ学習室を2部屋設置しています。

「サイレントゾーン」は、静かな環境を維持し、学習に専念するためのスペースとし、個人ブース10席を含め計150席の閲覧席を設置しています。

このほかにも安全・安心のための防犯カメラの設置、車椅子用階段昇降装置、対面朗読室、携帯電話ブースなど、施設・設備ともに改修前に比べ格段に充実させました。



テープカット



式典終了後、さっそく学生が利用



図書館開館時間延長および祝日開館をはじめました

総合図書館および理工学図書館の開館時間を次のとおり延長しました。

（総合図書館では5月1日から、理工学図書館では5月11日から実施）

・授業期間中の平日： 21時閉館 → 22時閉館（1時間延長）

（総合図書館では5月1日から、理工学図書館では6月6日から実施）

・授業期間中の土日： 17時閉館 → 19時閉館（2時間延長）

・授業期間中の祝日： 10時開館～17時閉館（新規に実施）



総合図書館と理工学図書館に飲料の自動販売機を設置しました

総合図書館と理工学図書館では、このほど飲物の自動販売機を設置しました。これは、図書館利用者の声を反映したものであり、図書館のアメニティ向上を目指しています。

自動販売機は、総合図書館では正面玄関入口のエントランスにカップ式のものを1台、東玄関入口のエントランスにペットボトル式のものを1台設置しています。理工学図書館では、エントランスにペットボトル式のものを1台設置しました。

総合図書館では、特に環境に配慮し、カップ式自販機の隣にはデポジット式紙カップ専用回収機が、ペットボトル自販機の隣には専用のデポジット機が設置されており、容器回収時には10円が返却されるようになっています。

なお、総合図書館のカップ式飲料の利用はエントランスのみとなっており、閲覧室への持ち込みは禁止しています。





総合図書館に車椅子用階段昇降装置を設置しました

総合図書館では、このほど車椅子用階段昇降装置を設置し、7月22日から運用を開始しました。

総合図書館は、4回にわたる増改築を重ねており、建物の高層階部分に段差が生じていました。これまでもエレベーターの設置箇所を工夫するなどして、車椅子利用者の図書館利用にできるだけ支障が生じないようにしてきましたが、場所によっては移動のためにかなり遠回りせざるを得ませんでした。今回、総合図書館A棟3階とB棟3階、A棟4階とB棟4階を結ぶ2箇所の階段部分に昇降装置を設置したことにより、このような不便が解消されるものと期待しています。

同装置は、車椅子1台用で180kgの重さまで対応が可能です。通常時は折りたたまれており、使用する時に乗車部分および手すり部分が展開されます。障害物を探知した場合には、自動的に停止する機能を備えており、昇降時の安全、周囲の安全にも配慮されたものになっています。

ご利用する際には、安全に配慮するため補助を受けて操作することになりますので、近くに設置されているインターホンで職員を呼び出してください。



大阪大学多目的ディスプレイ「O+PUS(オーパス)」が設置されました

6月1日より学内構成員のコミュニケーション活性化のため、ディスプレイの活用趣旨にご賛同いただいたパナソニック株式会社様からご寄附いただいた大型ディスプレイが学内14カ所に設置され、様々な情報発信をおこなうシステム「大阪大学多目的ディスプレイ「O+PUS (Osaka university and Panasonic Universal Sight)」」の運用を開始しました。

このうち、総合図書館B棟2階ラーニング・コモンズに103インチのものが、理工学図書館西館1階ラウンジに58インチのものが設置されています。



総合図書館および理工学図書館でノートパソコンの貸出を始めました

総合図書館でWindows20台 Mac4台の計24台を、理工学図書館でWindows4台のノートパソコンの貸出を始めました。

- ・無線LANでインターネットに接続できます。(接続には大阪大学個人IDとパスワードが必要です。)
- ・全台に Windows Office がインストールされています。

利用される場合は、総合図書館はA棟メインカウンターへ、理工学図書館はカウンターでお申し込みください。なお、利用にあたっては次の点にご注意ください。

- ・学内の方が対象です。
- ・当日貸出、館内使用のみです。
- ・閉館15分前までにお返してください。
- ・電源を切る前に、必要なデータは必ずUSBなどに保存してください。
- ・破損、紛失、盗難などは、全て借用者ご本人の責任となります。



蛋白質研究所図書室を再開室しました

改修工事に伴い閉室しておりました蛋白質研究所図書室を7月1日(水)から再開室しました。なお、資料の移転作業が完全には終了していませんので、図書室の利用を希望される場合は、(内線:9210)に事前にご連絡をお願いします。また、次の点にご注意ください。

- ・蛋白質研究所所属以外(学内・学外問わず)の方は、庶務係で手続きの上「入室カード」を受取り、図書室入口左横の読み取り装置にかざして入室してください。
- ・資料配置が大幅に変更されていますので、利用希望資料の所在は図書室職員にお聞きください。
- ・移転作業中のため一部利用できない雑誌があります。
- ・電子ジャーナルで利用可能なコアジャーナルの多くは、改修工事に伴い廃棄しています。



平成 21 年度いちょう祭で展示会をおこないました

総合図書館では、いちょう祭期間中（5月1日から2日）に施設開放と展示会をおこないました。

総合図書館には、2日間の間に1,540名の入館者がありました。同期間には図書館員による館内案内ツアーが4回おこなわれました。

また、「貴重資料展示：電子コレクションのオリジナル」と題して展示会をおこない、227名の方が来場されました。展示会では、懐徳堂関係資料、西洋古版アジア地図、須田国太郎能・狂言デッサン、赤木文庫に関するパネル展示（14枚）、貴重書展示（6点）、貴重資料展示（2点）をおこないました。さらに、電子展示として、大型ディスプレイおよびノートパソコンを1台設置し、観覧者が自由に操作・閲覧できるようにしました。



須田国太郎デッサンの展示会をおこないました

総合図書館ラーニング・commonsの開室にあわせ、6月2日から5日まで、須田国太郎 能・狂言デッサンのオリジナル 11 点を展示しました。同デッサンは、平成 17 年度に全点が電子化されており、附属図書館の電子展示としてウェブからも利用できますが、資料を保存する観点から、オリジナル資料が展示されることは珍しく、改修披露式典参加者の注目を集めていました。

今回の展示は、ラーニング・commonsの一角に新たに設けられた「ギャラリー・ゾーン」を利用しておこなわれました。ギャラリー・ゾーンは、資料の展示ケース5台と壁面のパネル、調整可能な照明装置によって構成されています。今後、図書館資料の展示会などに活用していく予定です。



「ユダヤ研究資料」展示会をおこないました

総合図書館B棟2階のギャラリー・ゾーンで、「ユダヤ研究資料」展示会を6月12日から9月末の予定でおこなっています。

「ユダヤ研究資料」は、昭和54年度に文部省（当時）の大型コレクションの予算措置を受けて収集したもので、1850年から1970年に至る期間の出版物、総数3,000点を超えるコレクションです。ドイツ語の文献が多く含まれており、内容は多方面にわたっています。単行本のほか、パンフレット、新聞、記録文書など多様な資料で構成されています。展示会ではコレクションの中から20冊を選んで展示しています。



理工学図書館ギャラリーで写真展示をおこないました

理工学図書館では、7月21日から8月21日の期間、西館1階及び2階で大阪大学鉄道研究会の写真展をおこないました。この写真展では、鉄道研究会の活動、研究紹介のほか、会員が撮影した鉄道写真も展示しました。期間中は、館内の利用者が熱心に見入っている姿が見受けられ、オープンキャンパスの高校生にも好評でした。理工学図書館では、西館の全フロアにポスターパネルの展示ができる設備があります。写真・ポスターの展示会、ポスターセッション等を随時募集していますので、お気軽にお問い合わせください。

問い合わせ先： w3master-sl @ library.osaka-u.ac.jp





理工学図書館が工学部 2009 オープンキャンパスに参加しました

理工学図書館では、8月11日開催の工学部オープンキャンパスに初めて参加しました。天候にも恵まれ、オープンキャンパス全参加者数約3,500人のうち1,547人も多くの方にご来館いただきました。当日は、図書館説明会や館内見学ツアーをおこない、また、終日自由見学とし、高校生・保護者や地域の方に広く開放しました。

西館2階ギャラリーゾーンに設置した「昨年度の貸出ランキングベスト10」の展示コーナーでは、図書を手にとって熱心に見入っている方が多く見受けられました。また、「電子資料体験コーナー」では、はじめて目にする電子ジャーナルや論文データベースなどに興味津々といった様子でした。



貸出ランキングベスト10



電子資料コーナー



図書館説明会



カウンターでの受付



「情報活用基礎」で図書館活用法を説明しました（2009 年度前期分）

「情報活用基礎」（全学共通教育科目－共通教育系科目－言語・情報教育科目）で各クラス1コマを使って、図書館職員が「図書館活用法」について説明しました。

前期分の説明は、4月16日から5月27日にかけて学内3カ所（サイバーメディアセンター豊中教育研究棟情報教育教室、法経大学院総合研究棟コンピュータ室、箕面地区コンピュータ演習室）で、Web版として作成したテキストに基づいて図書館の概要を説明したあとに、OPACの検索実習をおこないました。

附属図書館では、この説明を契機として図書館の蔵書がより活発に利用され、学習に活用されることを期待しています。



総合図書館でオリエンテーション及びライブラリーツアーをおこないました

新入生を主な対象としたオリエンテーション「新入生のための30分間でわかる図書館利用の基礎」を4月8日から14日までの5日間にわたり計10回、ライブラリーツアーを計5回おこないました。

オリエンテーションは、第1回目を12時20分から12時50分に、第2回目を16時30分から17時におこない、ライブラリーツアーを17時から17時30分におこないました。

期間中のオリエンテーションの参加者は470名、ライブラリーツアーの参加者は131名でした。



オリエンテーション
(図書館ホール)



ライブラリーツアー



平成 19 年度年次報告・自己点検評価報告書を発行しました

標記報告書を発行しました。全文をウェブページに掲載していますので、ご利用ください。

<http://www.library.osaka-u.ac.jp/nenzi/nenpoidx.htm>



電子ブック 3,600 タイトルが利用できます

附属図書館では、電子的情報基盤整備の一環として次の電子ブックを購入しました。約 3,600 タイトルの電子ブックが学内のネットワークから自由に利用できます。また、一部の電子ブックは所定の手続きを踏めば学外からも利用できます。

附属図書館のウェブページでも紹介しています。ご利用ください。

http://www.library.osaka-u.ac.jp/ebook/eblast_intro.html

<http://www.library.osaka-u.ac.jp/ebook/eblast.html>

(ア) OCLC NetLibrary eBook

現代史資料 (みすず書房)、朝倉物理学大系など OCLC 提供の和書 240 タイトル。他にフリーアクセスタイトルの約 3,400 の洋書が利用可能。

(イ) Elsevier ScienceDirect Reference Works

ScienceDirect をプラットフォームとした Elsevier 社の電子版参考図書 11 タイトル。

(ウ) SAGE eReference

Sage 社の電子版参考図書 27 タイトル。

大阪大学附属図書館 電子ブックタイトル一覧			
<p>大阪大学附属図書館では、電子的情報基盤整備の一環として、大阪大学の学内ネットワークから自由に利用できます。また、一部の電子ブックは所定の手続きを踏めば学外からも利用できます。</p>			
お知らせ			
<ul style="list-style-type: none"> * OCLC NetLibrary eBook 122 冊を追加しました(2009.5.28) * SAGE eReference 27 冊を購入しました(2009.4.2) * OCLC NetLibrary eBook 240 冊を購入しました(2009.3.27) * Elsevier ScienceDirect Reference Works 11 冊を購入しました(2009.3.27) 			
タイトルリスト			
資料名	ベンダー	OPAC	学外からの利用 (館大員のみ)
ふたし七物理学 したし七国語通論 / 志村史夫	OCLC	電子所蔵	
ふたし七物理学 したし七国語 / 小林久隆興 (志村史夫監修)	OCLC	電子所蔵	
ふたし七物理学 したし七国語 / 志村史夫	OCLC	電子所蔵	
ふたし七物理学 したし七電子物理 / 志村史夫	OCLC	電子所蔵	
ふたし七物理学 したし七電気 / 小林久隆興 (志村史夫監修)	OCLC	電子所蔵	
ふたし七物理学 したし七熱力学 / 志村史夫	OCLC	電子所蔵	
ふたし七物理学 したし七流体力学 / 志村史夫	OCLC	電子所蔵	
ふたし七物理学 したし七物性 / 志村史夫 / 小林久隆興	OCLC	電子所蔵	
ふたし七物理学 したし七量子力学 / 志村史夫	OCLC	電子所蔵	
20世紀英語文学辞典 / 上田和夫, 渡辺謙, 海老根	OCLC	電子所蔵	
20世紀の科学技術の発展 / 小林康夫	OCLC	電子所蔵	
TAMURA インド / 小笠原正博, 菅原敏之, 藤名隆典 編	OCLC	電子所蔵	
イギリス哲学 思想争論 / 日本イギリス哲学会	OCLC	電子所蔵	
オックスフォードコンピュータ / 小笠原正	OCLC	電子所蔵	
コンピュータの歴史 / 藤原, 藤原の編纂 / 日本電機学会	OCLC	電子所蔵	



データベースの利用講習会をおこないました

6月下旬から7月上旬にかけて、データベース提供元から講師を迎え、次のデータベースの利用講習会をおこないました。

- ・ 文学・言語学分野のデータベースである「MLA International Bibliography」
- ・ 人文社会分野の全文データベースである「ProQuest Academic Research Library」
- ・ 全学問分野にわたる引用文献データベースである「Scopus」
- ・ 全学問分野にわたる引用文献データベースである「Web of Science」

いずれも実際にデータベースの操作をしながら進めていく実践的な講習でした。受講者からは「役にたつ」という声を多くお寄せいただきました。



総合図書館で「酸性紙劣化と脱酸性化対策」研修会をおこないました

附属図書館では、6月12日に近畿地区国公立大学図書館職員を主たる対象として研修会「図書館における資料保存—酸性紙劣化と対策について—」を開催しました。学内図書館職員のみならず、近畿圏内の大学・公共・企業図書館職員、教員等、計73名の参加がありました。

大量脱酸システムを専門とする(株)プリザベーション・テクノロジーズ・ジャパンから横島文夫氏と清水理徳氏を講師として招き、酸性紙劣化のメカニズム、脱酸性化技術の歴史や世界的動向などの基礎知識を学んだ後、持参資料のpH測定、ハンドスプレーによる脱酸、和紙と正麩糊を使用した簡単な補修技術の実習を行ないました。

附属図書館では昨年度から「図書関係業務研修会」として、図書館職員が継承していかなくてはならない知識や技術に焦点を当てた実習を含む研修会を企画し、近畿地区国公立大学図書館にも公開しています。特に講義の後に体験する実習は好評で、継続的な研修会を期待する声が高く、今秋には古典籍資料(洋書編)の取扱い研修会が予定されています。

